

これは、貴国が平和を守る立場から、わが国の気象界との友誼と提携を強め、相互の気象界の現状と学術発展の状況を認識し合うための処置であると思います。深い感謝と敬意を表明します。

貴国とわが国の間には気象上きわめて密接な関係があり、気象業務の発展のためには、資料文献の交換・学者・技術者・留学生の交流をさかんにし、相互理解と連帯の強化がますます必要であると思います。

われわれはここに両国の友好関係を阻害するあらゆる企てに反対して闘うなかで、具体的に両国気象界の交流を獲得していくことを表明します。

このために、次のような提案を行ないます。

- (1) 安保闘争を闘った両国人民の友好的基盤に立つ

て日中両国の国交の正常化を獲得しよう。

- (2) U2型機による偵察のような気象観測という名を借りた中ソ両国へのスパイ活動に対して反対しよう。
- (3) 中国気象界がWMOに加盟できるような条件の実現への努力をしよう。
- (4) 日中友好協会、中国人民対外協会などと連携をとり、両国気象界の学者・技術者の相互の交流、文献資料の交換の実現に努力しよう。

日中両国の平和と友好万歳

1960年10月24日

全国気象職員組合

第4回定期中央大会

〔雲 鏡〕

予報のむづかしさと予報精度の向上について 大塚竜蔵*

長いこと現業で毎日の天気予報の仕事をやっていると、天気現象の複雑さ、予報のむづかしさを痛感する。西日本は快晴だが関東は例の北東気流で終日雨となってしまう。こんなときは天気は西から移るといった気象学の原則は役に立たない。気圧傾度から算出した理論値よりも特定地点間の気圧差の変化量の方が実際の強風注意報発表の有効なキメ手となることが多い。与えられたいくつかの天気図や補助資料から明日の天気予報に対する各人各様の推理を多くの気象学的根拠に基づいて述べることは簡単だが、実際に当らなければ何にもならない。気象学の原則をやたらにフリ回して予報が当たると得意になっていると、逆に天気の方からあなたの予報はまだ未熟ですよとコッピどくやられる。大気環流がノーマルな状態で気圧系の動きが順調なときは気象学の標準法則も役立つが、それでも局地予報にしぼってくるといろいろむづかしさがでてくる。例えば傾向的には◎ベースの予報が当たったとしても或る地点では◎時々①、他の地点では◎一時●といった工合になる。

注意報、警報となると発表のタイミングや精度を適確ならしめるためマップ・アナリシスだけでは不十分で、時には徹夜で、刻々入る新らしい観測データと取りくまなくてはならない。まさに天気は気まぐれな生きもので、快晴だからといってのんびりしていると明け方濃霧による事故がおきて濃霧注意報が問題にされる。晩霜またしかりである。ここに予報官の天気監視の苦勞と気の置けない予報のむづかしさが生れてくる。天気予報に対する社会の利用面（生産面、消費面、その他）や防災面の活

用の増大、多岐にわたるにつれて、天気予報に対する社会の関心は昔日の比ではない。それだけに予報のむづかしさをヒシヒシと感ずるのである。長年の豊富な経験がこのむづかしさを或る場合は克服してくれるのが現状であろう。多くの予報不適中のにがい体験を得る毎に積み重ねられていった調査、検討が各予報官の予報能力の大きな要素となっている。

各地の予報官が独自の体験と勉強で得た予報虎の巻を蒐集して公開する、毎年実施される全国予報技術検討会や各地区の予報技術検討会の貴重にして膨大なガリ版ズリの予報資料をアレンジして本印刷して年刊とする、毎年出される膨大な研究論文の中で実際の予報に有効な指針となるものをアレンジして年刊とする、現用の各種指報図表類にさらに加味すべき図表の考案と作成、各地で用いられている特殊予報のための図表、ワーク・シートなどの一覧表といった多くの地味な仕事をやる予報調査部といったようなパートの確立を痛感する。少しでも精度の高い予報を出そうと毎日全力をつくしている予報官はこのパートから最近の予報技術に関連した知識を得たり、その進歩の過程をふり返ることによって、先人が犯した同じ失敗を繰り返さないですむようになる。又、自己の直面した予報の難かしいケースをこのパートにもちこんで、検討のための援助を得ることができるようになる。

研究業務の拡充、数値予報の発展、機械化の促進、観測網の充実などどれも予報精度向上に大切だが、日常予報の精度向上と直接的に結びつくこのようなパートが存在しないのは何かかんじんな奥歯が一本抜けているような気がしてならない。

* 気象庁予報課